

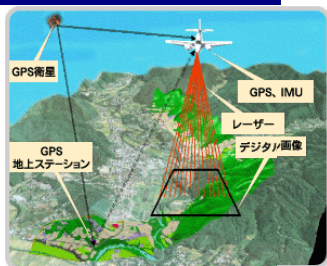
参考資料集

試験掘削地の解放水面と地下水位の状況

自然再生地の地盤高

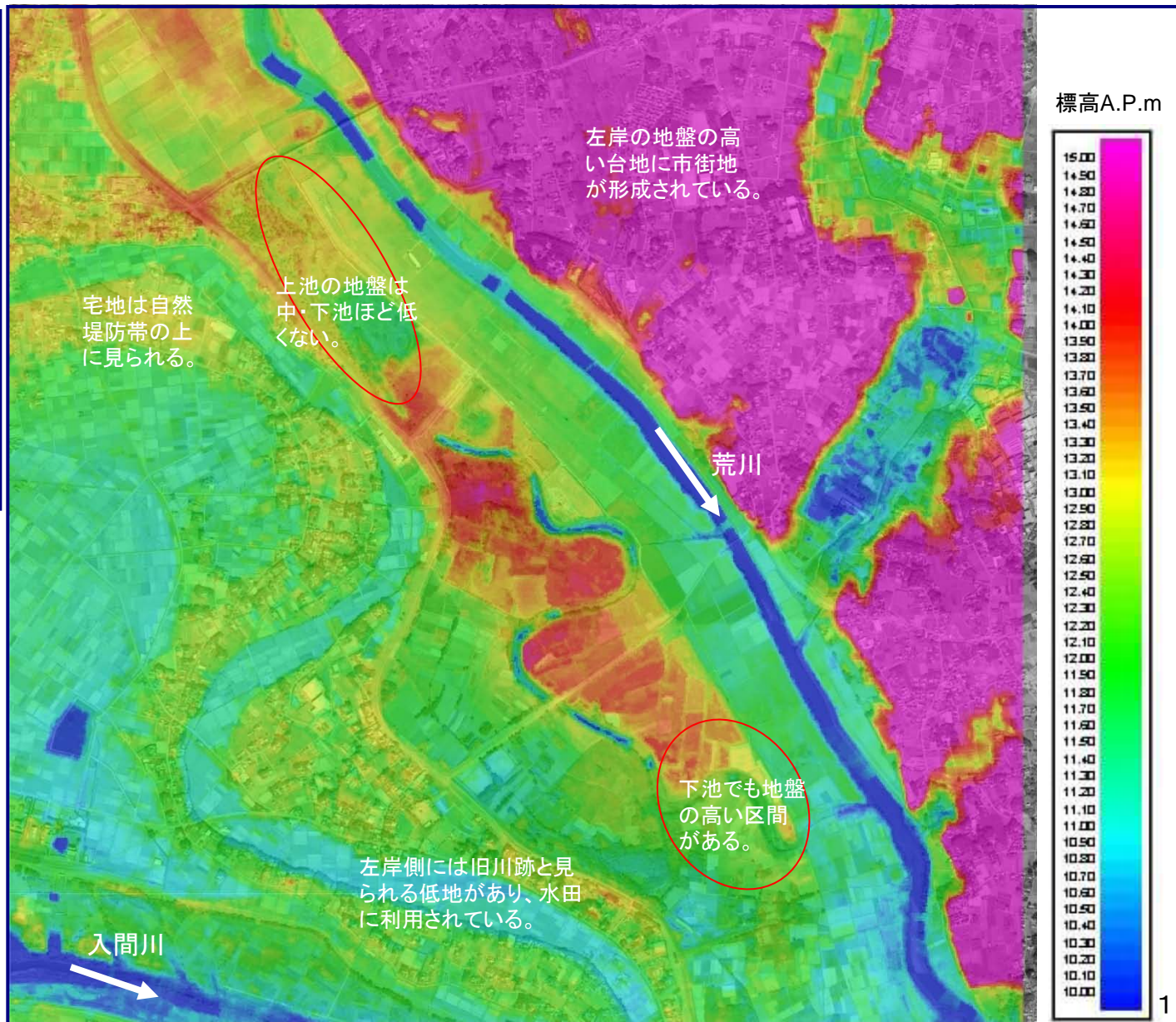
- 関東地方整備局で実施したLPI観測データを用いて、対象地区の5mメッシュ地盤高の状況を把握した。
- 荒川の左岸は地盤が高く、市街地が発達しているが、右岸側は旧川跡が水田として利用され、自然堤防帯の上に宅地があることがわかる。
- 自然再生地の旧流路は中・下池で地盤が低いが、上池の旧流路跡は地盤が周辺の地盤と比較して低くないことがわかる。

LPIによる地盤高の測量



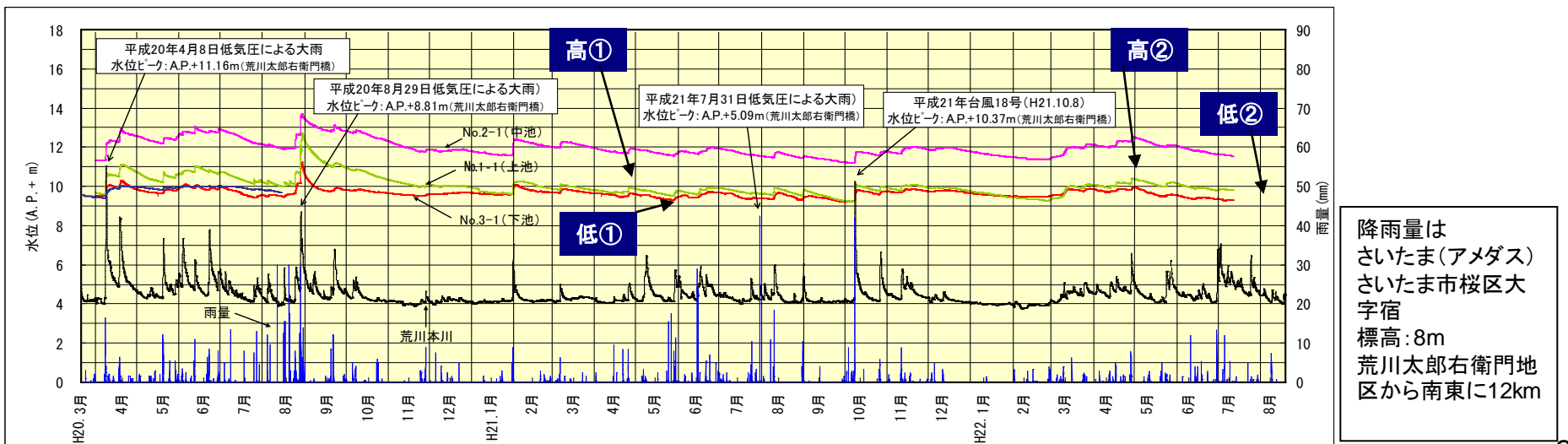
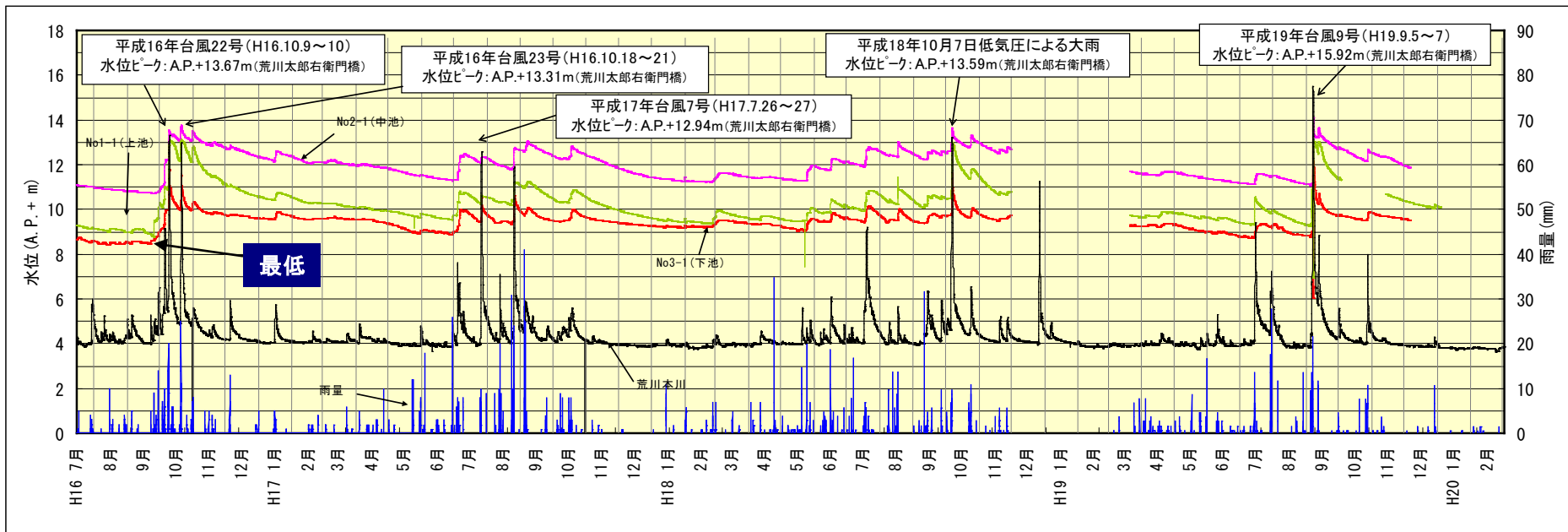
航空レーザー測量の概観

LPでは上空よりレーザーを用いて地盤の高さを詳細に計測する。なお、光の特性より水面より下の高さや樹木等によって、レーザーが地面に到達できない場所は地盤高を正確に計測できないことに注意が必要。



試験掘削地の地下水位の状況

地下水位の時系列



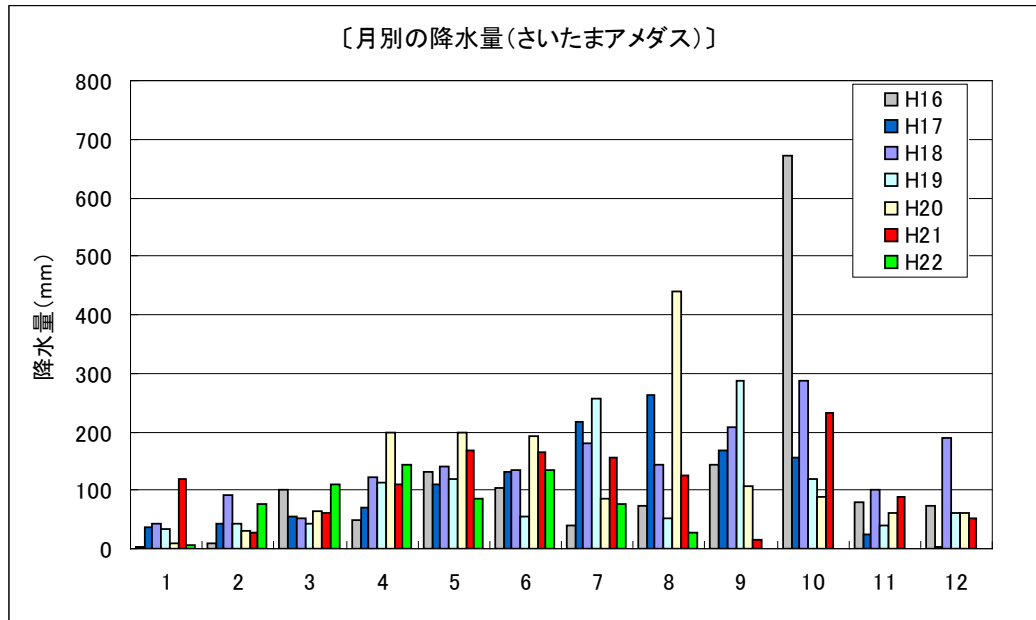
降雨量は
さいたま(アメダス)
さいたま市桜区大
字宿
標高:8m
荒川太郎右衛門地
区から南東に12km

試験掘削地の地下水位の状況

降雨と平均地下水位の状況

- 平成22年の降水量は、例年より少雨傾向にある。
- 平成22年の地下水位は、概ね例年並みである。

●降水量



※H22は8月20日までのデータによる

※降水量はアメダスの「さいたま地点」のデータから整理した

●地下水位(平水位)

(単位:APm)

地点	年	地下水位
No1-1 (上池)	H17	10.46
	H18	10.18
	H19	9.99
	H20	10.55
	H21	9.89
	H22	10.01
	H17~21平均	10.21
No2-1 (中池)	H17	12.11
	H18	11.98
	H19	11.64
	H20	12.43
	H21	11.80
	H22	11.84
	H17~21平均	11.99
No. 3-1 (下池)	H17	9.64
	H18	9.61
	H19	9.42
	H20	9.78
	H21	9.65
	H22	9.63
	H17~21平均	9.62

※H22は7月11日までのデータによる

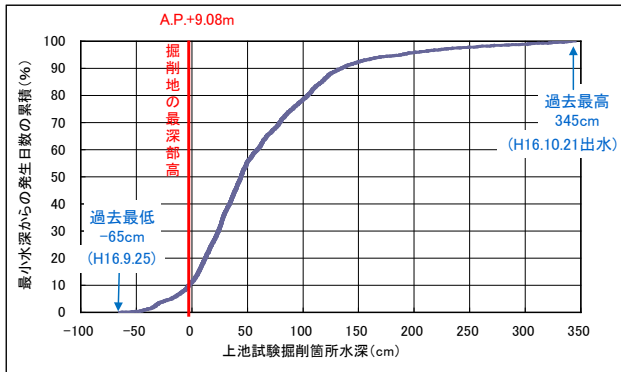
※地下水位は、1年を通じて185日はこれを下回らない水位

※H22年は8月時点までのデータにより整理したため、参考値として掲載している

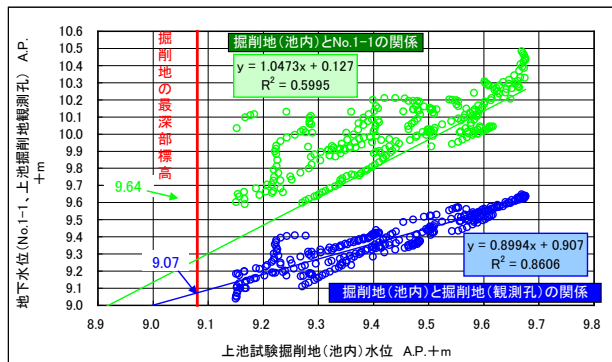
地下水位の状況

最低地下水位の等高線 (H16.9.25)

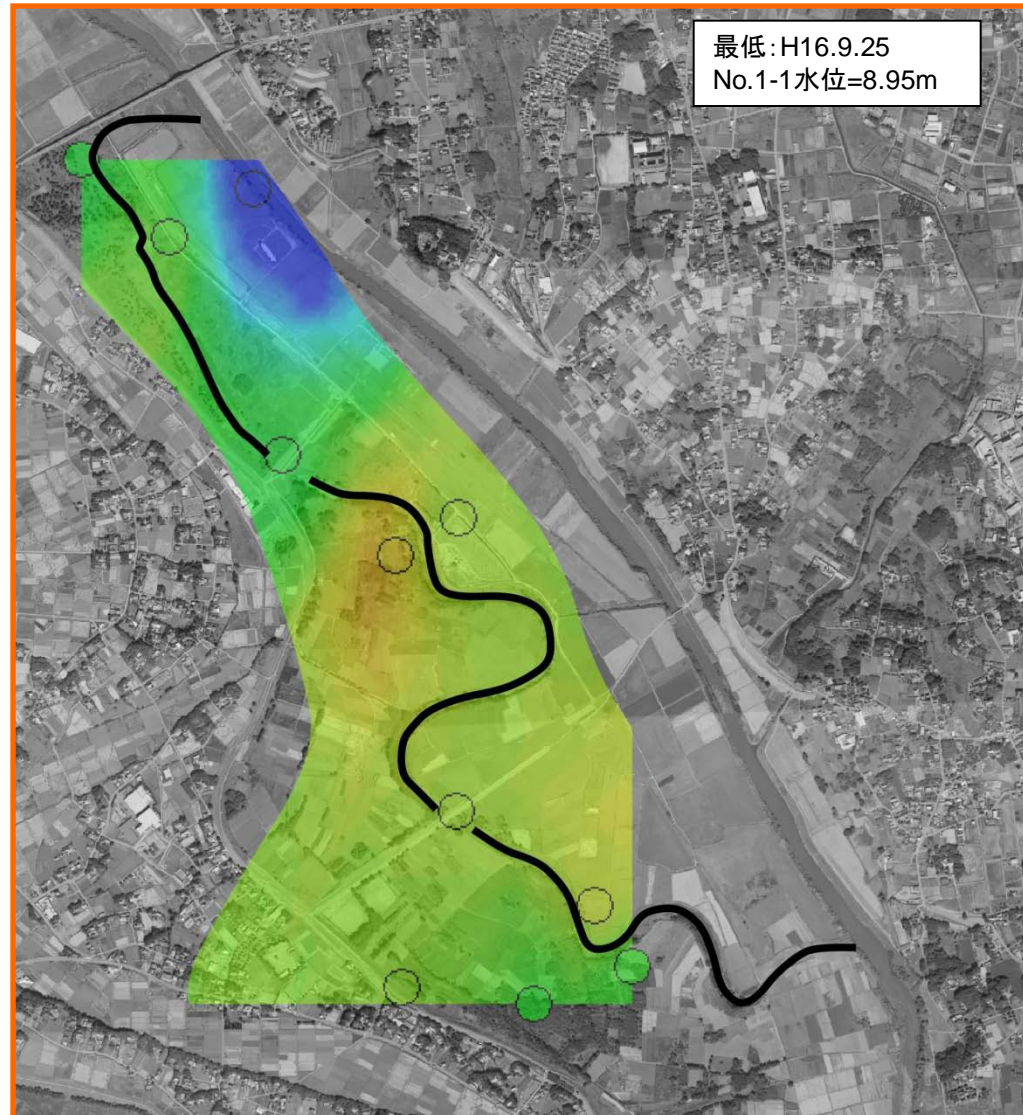
- H16より観測しているNo.1-1の最低水位はH16.9.25の8.95mである。
- No.1-1と上池試験掘削地の水位の相関から上池試験掘削地の水位を推定すれば8.43mであり、試験掘削の高さより65cm下に位置する。



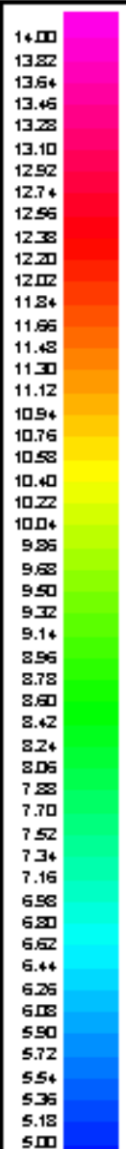
※2004年3月23日～2010年7月12日の間の観測データによる(データ数は欠測を除く2066個のデータ)。
 ※上池試験掘削箇所水深は、No.1-1地点との相関による推定値。



※日平均値を使用。
 ※上池試験掘削地内の最深部池内水位が観測可能なA.P.+9.15m以上(水深7cm以上)の水位データを使用した。
 ※掘削地の最深部の標高は、A.P.+9.08m。



地下水位A.P.m



試験施工箇所のモニタリング結果

上池試験掘削地の確認種の代表例
5月～7月

● 昆虫は、ホソミオツネイトンボ、オオアオイトンボ、アジアイトンボ、ショウジョウトンボ、シオカラトンボ、ヒメアメンボ、アメンボやコマツモムシなどの水生カメムシ目、ハイイロゲンゴロウやハエ類などが確認された。7月以降は水面が消失したため、ハネナガヒシバツヤやエリザハンミョウ、コハンミョウなどの湿地や乾いた裸地環境を好む種が確認された。

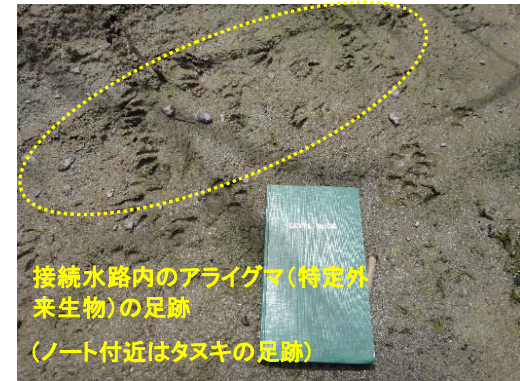
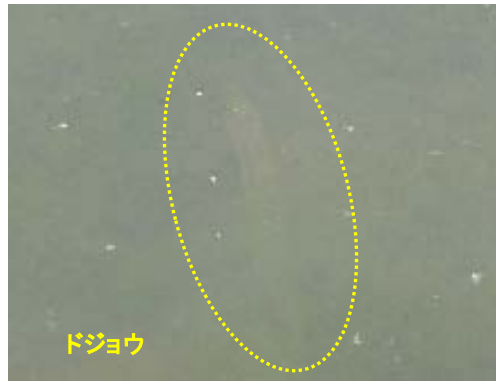


CR: 絶滅危惧 I A類
EN: 絶滅危惧 I B類
VU: 絶滅危惧 II類
NT: 準絶滅危惧
LP: 地域個体群

試験施工箇所のモニタリング結果

上池試験掘削地の確認種のトピックス 5月～7月

- 上池ではドジョウ、マルタニシ、トウキョウダルマガエル等が確認された。水面があれば水生生物の生息が可能であると考えられる。
- 池の周辺ではタヌキ、アライグマの足跡が確認された。
- また、バイクのワダチが多数確認され、対策として、進入禁止の看板設置を行った。



- CR: 絶滅危惧 I A類
- EN: 絶滅危惧 I B類
- VU: 絶滅危惧 II類
- NT: 準絶滅危惧
- LP: 地域個体群

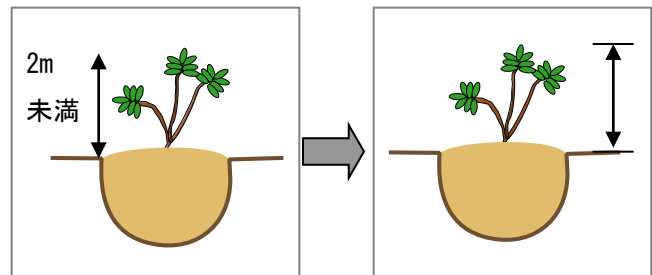
試験施工箇所のモニタリング結果

ハンノキ育成試験の条件



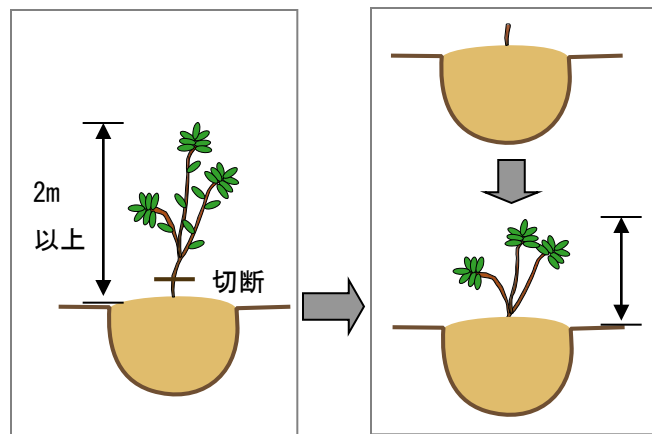
2つの移植方法と計測方法

2m未満の幼木の移植イメージ



高さ
と根際
直径を計測

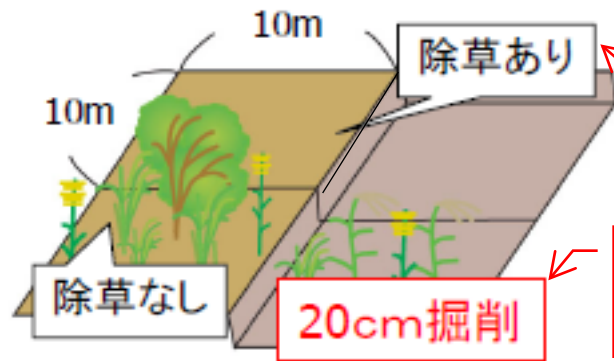
2m以上の萌芽更新による移植イメージ



計測日の最大成長枝の高さと根際直径を計測

多数の枝が成長しているため、枯れるものも出てくると推測される。従って、当面は計測日の最大成長枝を対象とする。

試験条件



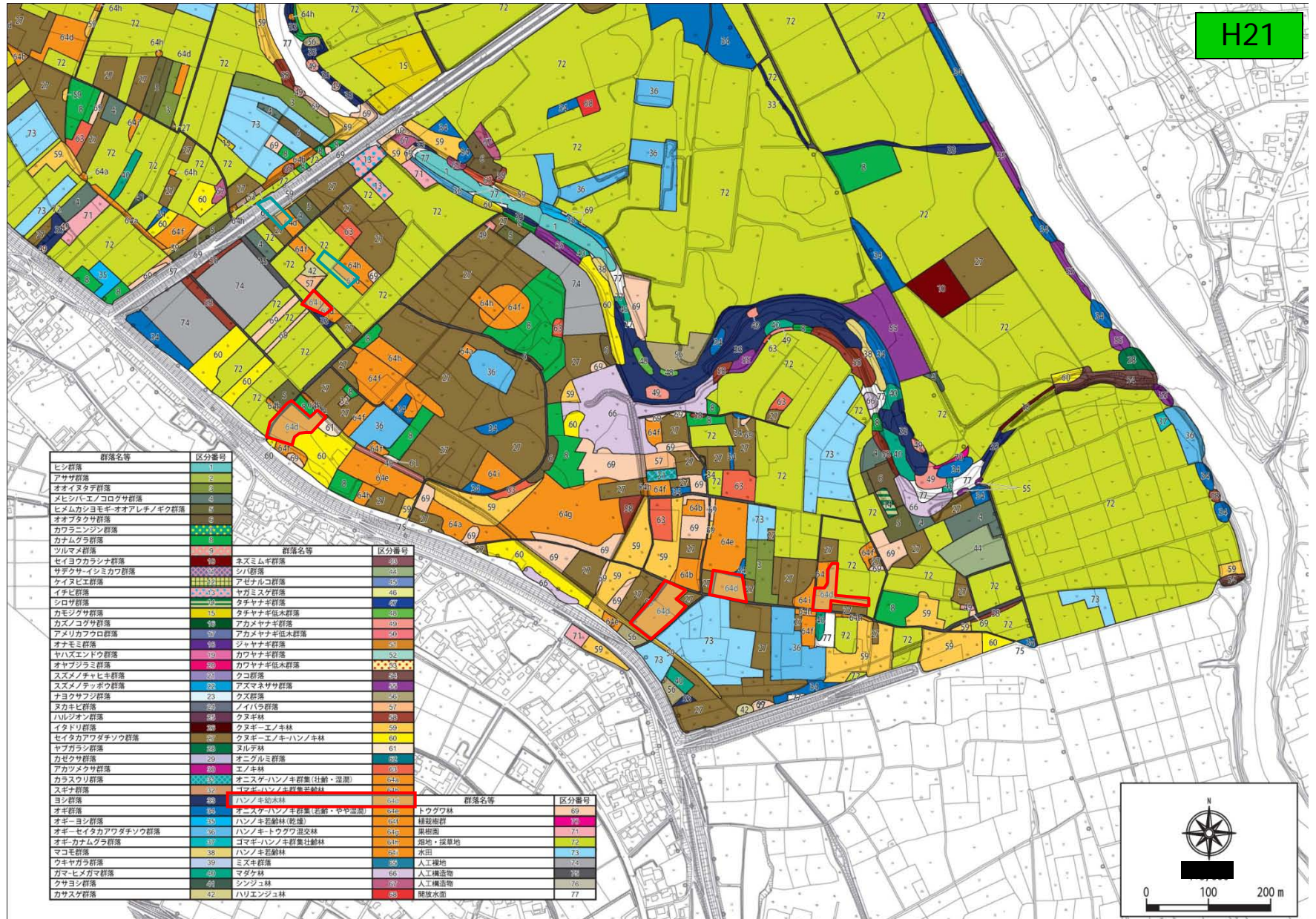
競合する他の草本類の有無による生育状況を検証するため、除草する。

⇒ 試験地①および②の「掘削無し」の範囲で実施

土壤水分条件の違いによる生育状況を検証するため、20cm掘削する。

試験施工箇所のモニタリング結果

ハンノキの幼木林の位置(下池)



自然再生地全体での維持管理：全体の環境保全

【ゴミ対策】

- ① 投棄されたゴミの処分
- ② ゴミ投棄対策として看板の設置



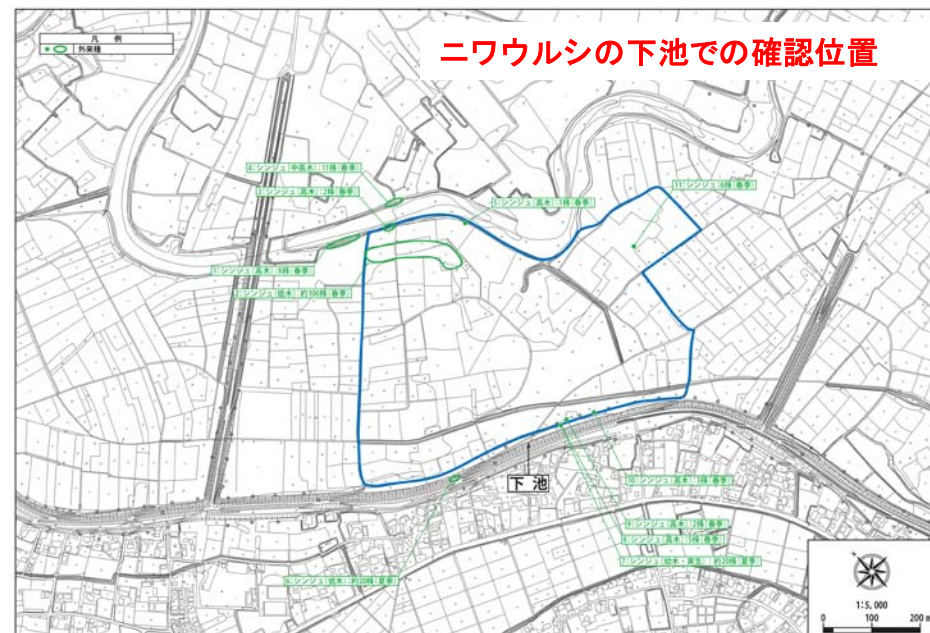
上池試験掘削地の入り口に
投棄されたゴミ

【外来種対策】

- ① 動向の監視
- ② 除去や駆除、看板設置等

* 外来種の例

- ・特定外来生物 アレチウリ、オオカワヂシャ、アライグマ、オオクチバス、ブルーギル等
- ・要注意外来生物 オオブタクサ、セイタカアワダチソウ、ヒメムカシヨモギ、アメリカザリガニ等
- ・その他 ニワウルシ等



ニワウルシの下池での確認位置

図 植物相重要種位置図(下池)